

平成 23 年度第 5 回常務理事会議事録

日 時：平成 23 年 11 月 18 日（金）15：00～17：30

会 場：事務局 会議室

出席者：

理事長：小西 郁生

副理事長：落合 和徳

理 事：岩下 光利、嘉村 敏治、木村 正、上妻 志郎、峯岸 敬、八重樫 伸生、
吉川 裕之

監 事：武谷 雄二、岡村 州博、和氣 徳夫

第 64 回学術集会長：平松 祐司

第 65 回学術集会長：櫻木 範明

理事会内委員会委員長：竹下 俊行、吉村 泰典

幹事長：矢野 哲

副幹事長：澤 倫太郎

幹 事：上田 豊、金内 優典、北澤 正文、小林 陽一、榊原 秀也、佐藤 豊実、
下平 和久、高倉 聡、多賀谷 光、津田 尚武、永瀬 智、中村 和人、
阪埜 浩司、藤原 浩、増山 寿、山下 隆博

総会議長：佐川 典正

総会副議長：内田 聡子、清水 幸子

事務局：桜田 佳久、青野 秀雄

15：00 理事長、副理事長、常務理事の総数 11 名のうち、9 名が出席（岡井 崇副理事長、吉川 史隆理事は欠席）し、定足数に達したため、小西郁生理事長が開会を宣言した。小西 郁生理事長が議長となり、議事録署名人として、小西 郁生理事長、監事の計 4 名を選任し、これを承認した。

I. 平成 23 年度第 4 回常務理事会議事録（案）の確認 原案通り、承認した。

II. 業務担当理事報告並びに関連協議事項

1) 総 務（岩下 光利理事）

〔I. 本会関係〕

(1) 会員の動向

清宮 寛功労会員（群馬）が 11 月 1 日に逝去された。（群馬学会より 11 月 8 日連絡受領）

(2) 石巻への医師派遣について、〔資料：総務 1〕

①現地の意向を受けて、来年以降は中断することとしたい。

②9 月以降の派遣医師への表彰を来年 4 月に行い、8 月表彰分と合わせたお礼状兼表彰報告を各大学等の派遣責任者（病院長もしくは担当教授）に送りたい。〔資料：総務 1-1〕

八重樫 伸生理事「全国から応援を頂きありがとうございます。産科施設の再開が進み、石巻赤十字病院に来る妊婦数も落ち着いてきたため、派遣の中断をお願いすることにした。」

岩下 光利理事「表彰状については 1 月に送付してはどうかとの提案もあった。またお礼状は病院長に

送るのか教室あてなのかも決めておく必要がある。」

小西 郁生理事長「それでは医師派遣はこの12月の琉球大学までで中断としたい。また表彰については早い方がよい。1月に表彰状を送付することでよいのではないか。また産婦人科のアピールの意味もあり各大学病院長などにはお礼状を送ることとしたい。」

本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

(3) 理事会における学術集会長選出方法について [資料：総務1-2、1-3、1-4]

学術集会長選出方法については、12月16日開催の運営委員会で検討し、17日の第3回理事会で承認を受けることとしたい。このため第67回学術集会長の選出は平成24年2月25日開催の第4回理事会で行いたい。なお第67回学術集会長候補者選定委員会は12月16日に開催する。

岩下 光利理事「平成21年度第4回理事会で12月の理事会で学術集会長を選出することを承認頂いたが、今回は立候補者が複数となり選出方法について検討が必要であるため、12月の理事会で選出方法を決めた上で来年2月の理事会で選出することとしたい。」

木村 正理事「候補者が複数の場合は12月・2月の2段階構えがよいと思うが、候補者が一人の場合は12月で選出すると学会準備がやりやすくなるように思う。」

武谷 雄二監事「学術集会長を選出する際に『利害関係を有する理事』という観点を入れてルール作りをすべきではない。学術集会長は最適な人になってもらいたいわけで、利害関係を云々することはここではふさわしくない。」

岩下 光利理事「理事と非理事が立候補した場合に生じる不公平さに配慮した。その意味では利害関係ではない。」

岡村 州博監事「学術集会長選出方法案2. ②は『立候補した理事は投票権を行使できないものとする』だけでよいのではないか。」

岩下 光利理事「この点に加え欠席の場合や白票の取扱いも含めて考え方を整理し12月に提示したい。」

吉川 裕之理事「12月に選出するとした背景には、会場審査の問題があった。これについては8会場以外を希望する場合には早目に会場審査を行うことで対応できると思う。」

吉村 泰典理事「現行のスケジュールだと選考委員会の答申があって初めて所信表明が見られる。そしてその日のうちに選挙となるわけでかなり無理がある。2月理事会での選出が望ましい。」

和氣 徳夫監事「今回はそれでよいが、運営委員会で12月に前倒して行うケースも含めて標準的なスケジュールや学術集会長選出方法案などのルールを検討して頂く必要がある。」

吉川 裕之理事「立候補した理事には本当に投票を認めないのかということも含めて検討をお願いしたい。」

嘉村 敏治理事「確認であるが、理事のみが複数立候補した場合は投票できるということによいか。」

岩下 光利理事「利害関係というより公平の観点からの問題なので、その場合は投票可である。」

小西 郁生理事長「今回は学術集会長は2月の理事会で選出することとし、ここでのご意見を参考にし学術集会長選出方法について12月に提示して頂くことにしたい。」

本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

(4) 第67回学術集会長候補者選定委員会委員の委嘱、解委嘱について

委嘱：水沼 英樹先生 解委嘱：峯岸 敬先生

本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

(5) 若手医師確保に関するワーキンググループより、各委員会への検討依頼を行うとともに、3種類のアンケート（各大学産婦人科主任教授あて、専攻医指導施設指導責任医あて、平成20～22年度に登録した専攻医あて）を行った。なお次回のワーキンググループは12月16日に開催予定である。
[資料：総務2]

(6) 平成24年度事業計画ならびに予算案編成に関する意見を代議員から募集した（11月15日締切）が、特に意見はなかった。

(7) 専門委員会

(イ) 生殖・内分泌委員会

①ホルモン補充療法ガイドライン頒布状況について

11月9日現在、入金済5,380冊、校費支払のため後払希望 12冊。

(ロ) 婦人科腫瘍委員会

①子宮頸癌・子宮体癌取扱い規約改訂第3版について [資料：総務3-1、3-2]

嘉村 敏治理事「これに序をつけて完成版となる。発刊は来年の学会に間に合わせるようにしたい。またがん登録についても画像を取り込んで早ければ来年にも内容を変えて行く。」

落合 和徳副理事長「印税の契約などはどうなっているのか。」

嘉村 敏治理事「日本病理学会から申し入れがあり、ページ数によって分けていく方向で考えている。」

(ハ) 周産期委員会

①今後の母子健康手帳及び母子保健施策のあり方について検討を行ってきた「母子健康手帳に関する検討会」の報告書がまとまった。今後、厚生労働省はこの報告書をもとに省令を改正し、来年度から新しい母子手帳が配布される。[資料：総務4]

②日本周産期・新生児医学会より、日本産科婦人科学会周産期データ登録をした施設に対して、日本周産期・新生児医学会(母体・胎児)の施設認定基準となる診療実績スコアに1点を加算することが決定された通知と、その事務処理をスムーズに行うために周産期データ登録施設の最新データを本会から定期的に提供してほしい、との依頼があった。[資料：総務4-1]

岩下 光利理事「周産期委員会で登録を行ってきた施設を日本周産期・新生児医学会に教えて欲しいということで、よろしくお願ひしたい。」

本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

(ニ) 女性ヘルスケア委員会 特になし

〔Ⅱ. 官庁関係〕

(1) 厚生労働省

①同省雇用均等・児童家庭局長および医政局長より、平成23年度乳幼児突然死症候群(SIDS)対策強化月間(11月1日～30日)に行う普及啓発運動の効果的実施につき、協力要請があった。本会ホームページおよび機関誌に掲載して会員へ周知した。[資料：総務5]

②同省保険局保険課および国民健康保険課より、出産育児一時金等の支給の取扱いについての協力依頼があった。本会ホームページに掲載して会員へ周知した。[資料：総務6]

③同省保険局総務課保険システム高度化推進室長が事務局に来訪し、平成24年3月請求分から電子レセプト分の診療報酬の支払い早期化を行う旨の説明があった。[資料：総務7、7-1]

(2) 消費者庁

消費者庁・消費者安全課より、幼児・学齢期の子供を持つ保護者を対象にしたチラシ（情報サイトの案内）を作成するにあたり、本会ホームページに掲載している「食材中の放射能セシウムについて心配しておられる妊婦・授乳中女性へのご案内」を、情報サイト案内として、チラシに掲載することの承諾を求めて来たので、これを応諾した。[資料：総務8]

(3) 福島県

福島県と福島県立医科大学、福島県産科婦人科学会、同医会連名で、福島県妊産婦に対する平成23年度県民健康管理調査実施にあたっての協力依頼を受領した。本会会員に対して「福島県外で対象妊産婦が受診した場合は案内状を渡して、県民健康管理調査事務局に連絡を取り調査票に回答して頂くよう」周知連絡してほしい、というものである。本会ホームページおよび機関誌に掲載して周知を図りたい。[資料：総務8-1、8-2]

本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

〔Ⅲ. 関連団体〕

(1) 日本医学会

日本医学会法人化準備委員会第1回委員会が開催され、分科会からの会費の金額計算案および定款案が提示された。12月19日開催予定の第2回委員会では、この案をもとに議論を進める予定となっており、各分科会での検討をお願いしたい、としている。[資料：総務9]

嘉村 敏治理事「1億円案と1.5億円案の違いとその根拠は何か。」

岩下 光利理事「事務局費用等についての説明は無かった。次回委員会で確認したい。」

吉川 裕之理事「日本医学会は今までは日本医師会に払った会費で運用されてきた。医師会の会費が変わらないなかで費用負担が生じるのには少し釈然としない部分がある。」

嘉村 敏治理事「基礎系学会と臨床系学会で負担割合を変える案もあるが、この理由はなにか。」

岩下 光利理事「基礎系学会には会員数が極めて少ない団体もあり、会の体力を意識したものである。」

落合 和徳副理事長「医学会総会や学術会議との関係を考えてと参加しない選択肢はないだろう。」

小西 郁生理事長「全体の動向を見守りながら対応したい。」

(2) 日本 IVR 学会

日本 IVR 学会より「産科危機的出血に対する IVR のガイドライン 2011」（以下、同ガイドライン）について、以下の4点の依頼を受けた。[資料：総務10]

1. 同ガイドラインの共著者となること。
2. 外部委員1～3名を推薦し、年内に指導頂けるよう手配すること。
3. 外部評価後、本会会員に向けてパブリックコメントを公募すること。
4. 「産科危機的出血への対応ガイドライン」を同ガイドラインへ転載することの許可

外部委員については浜松医科大学 金山尚裕先生と東京女子医科大学 松田義雄先生を推薦し、後の3点も了承する旨の回答を行った。

吉川 裕之理事「本件についてはガイドライン委員会で議論があった。このガイドラインの対象は IVR 担当医のみでよいのではないかということと、本会と医会はこれに協力するが共著者にはならないことではどうか、という意見を周産期委員会に提出している。」

小西 郁生理事長「この取扱いについては慎重にじっくり対処したい。」

(3) 日本肥満学会

日本肥満学会が検討してきた「肥満症診断基準 2011」が完成した旨の連絡があった。この診断基準については、以前に本会に内容の確認依頼があり、協力した経緯がある。[資料：総務 11]

(4) 日本小児科医会

健やか親子 21 課題 3 を主管する日本小児科医会から、11 月 26 日に開催されるシンポジウム「これからの医療 VPD ワクチンで子どもを守ろう」の案内があった。[資料：総務 11-1]

(5) 神奈川県産科婦人科医会

同会が主催する「初期臨床研修医キャンプ」への補助金援助の依頼があった。各都道府県学会からの個別の補助金援助要請に応えることは難しく、これを謝絶したい。[資料：総務 12]

平松 祐司第 64 回学術集会長「若手医師確保に関するワーキンググループのアンケートには地方学会の事業に対する批判的な意見もあった。」

小西 郁生理事長「各地方学会では独立採算でこのような事業を行っていると思う。本件もそれをお願いしたい。」

本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

[IV. その他]

(1) 全日本私立幼稚園連合会より、同会主催「こどもがまんなかPROJECT」キャンペーンソング「生まれてくれてありがとう」の CD4,000 枚を宮城、岩手、福島の産婦人科病院に贈呈したいとの申し入れがあった。その具体的な配布方法について本会に助言を求めている。[資料：総務 13]

本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

2) 会 計 (岡井 崇副理事長欠席につき下平 和久主務幹事)

(1) 平成 23 年度経費支出見込みと平成 24 年度事業計画書 (予算申請額を含む) について、各部署、委員会に 11 月 30 日を期限として提出を依頼した。

3) 学 術 (峯岸 敬理事)

(1) 学術委員会

(イ) 会議開催

①平成 23 年度学術奨励賞予備選考委員会を 12 月 15 日に開催する予定である。

②第 3 回学術委員会、第 3 回学術担当理事会を 12 月 16 日に開催する予定である。

(ロ) 平成 23 年度学術奨励賞候補者の推薦及び応募を 10 月 31 日に締め切り、10 名が推薦された。

(2) プログラム委員会関連

(イ) 会議開催

①第 64 回学術講演会プログラム委員会を 11 月 30 日に開催し、一般演題の選考を行う予定である。

4) 編 集 (上妻 志郎理事)

(1) 会議開催

11 月 18 日に JOGR 全体編集会議ならびに和文誌編集会議を開催した。

(2) 英文機関誌 (JOGR) 投稿状況 : 2011 年投稿分 (10 月末現在)
投稿数 799 編 (うち Accept 144 編, Reject 367 編, Withdrawn/Unsubmitted 125 編, Under Revision 74 編, Under Review 87 編, Pending 0 編, Expired 2 編)

(3) 和文機関誌に関するアンケートについて

日本産科婦人科学会雑誌に関するアンケートのお願いを学会機関誌 11 月号ならびに学会ホームページに掲載した。締切は 11 月末日としている。

上妻 志郎理事「学会出版物、他学会と共同制作の出版物、本会が著作権を持つ出版物などの記事の転載許諾についてどう対応すべきかについて、ご意見があれば伺いたい。」

嘉村 敏治理事「子宮頸癌・子宮体癌取扱い規約では、転載したい部分の担当学会の判断に従うことになっている。だから一つの本のなかで転載への対応が異なることになる。」

上妻 志郎理事「商業目的の転載は許諾料を取るべきという意見もある。」

落合 和徳副理事長「出版社が商業目的の転載を許諾する際の契約書などを参考にしてはどうか。」

小西 郁生理事長「他学会では、商業目的の場合、著者の許可を得て委員会で承認した上で 1 部〇円ということで許諾料を取っているようである。他学会の状況をよく把握して編集委員会でルールを作ってほしい。また共同制作の場合は個別に関連学会と相談して進めることになるのではないか。」

上妻 志郎理事「公益法人なので許諾料は取れない、という意見は無いようなので、編集委員会で議論を進めたい。」

5) 渉 外 (木村 正理事)

(1) 会議開催

12 月 17 日、第 2 回渉外理事・幹事会議を開催の予定である。

[FIGO 関係]

(1) FIGO2021 招致に向けて、日本政府観光局 (JNTO) のご協力を得て、6 都市からの提案書を受領した。

[SOGC 関係]

(1) 本会名誉会員の Dr. Andre B. Lalonde が SOGC Executive Vice-President を退任し、Dr. Vyta Senikas が Acting Executive Vice-President を務める旨、SOGC より連絡を受けた。

(2) 2012 年 6 月 20~24 日、Ottawa にて開催の SOGC Annual Clinical Meeting における Exchange Program に、本会から役員 2 名、若手医師 3 名、随員 1 名を派遣する。役員の 1 名として、木村正渉外担当常務理事が 出席の予定である。

[その他]

(1) フィリピン産科婦人科学会 65 周年記念の Annual Convention が 11 月 8~11 日に開催されるにあたり、President の Dr. Sylvia de las Alas-Carnero へ本会理事長および渉外担当常務理事連名による祝辞を送った。

6) 社 保 (吉川 裕之理事)

(1) 会議開催

①10月21日、第2回社保委員会を開催した。

②11月18日、常務理事会終了後、第1回社会保険診療報酬改定提案ワーキンググループ、および第3回社保委員会を開催の予定である。

(2) 社保委員会内に社会保険診療報酬改定提案ワーキンググループを設置した。メンバーは以下の9名とする。

吉川 裕之委員長、西井 修副委員長、佐藤 豊実主務幹事、海野 信也委員、久布白兼行委員、久保田俊郎委員、竹田 省委員、若槻 明彦委員、渡部 洋委員

本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

(3) 「第4版 産婦人科医のための社会保険ABC」正誤表について [資料：社保1]

(4) 「医療上の必要性の高い未承認薬・適応外薬の第2回開発要望募集」に、個人から適応外薬の要望が提出されたオムニパーク（イオヘキソール）について、本会と日本生殖医学会の見解を厚生労働省より求められている。

(5) 厚生労働省保険局および医薬食品局より、公知申請にかかる事前評価が終了した医薬品の保険上の取扱いについての通知があり、本会ホームページに掲載した。[資料：社保2、2-1]

(6) 日本医師会治験促進センターより、治験推進研究事業における治験候補薬および治験候補機器の推薦依頼が送られてきた。[資料：社保3]

落合 和徳副理事長「日本医師会疑義解釈委員会の保険適用検討委員会で、婦人科内視鏡手術等におけるダビンチ使用についての保険適用の検討を行っているが、答申案としては明らかにダビンチ手術が腹腔鏡手術に勝る領域に関して保険適用を認める方向である。これについて社保委員会からの意見を頂きたいと考えている。」

小西 郁生理事長「複雑な問題なので、全体の流れを見ながら判断していきたい。」

7) 専門医制度 (吉川 史隆理事欠席につき矢野 哲幹事長)

(1) 会議開催

臨時中央委員会を12月3日に開催する予定である。

(2) 日本専門医制評価・認定機構の平成23年度第2回社員総会が平成24年2月28日に開催される予定である。[資料：専門医1]

(3) 厚生労働省から12月1日開催予定の「専門医の在り方検討会」の内容案内及び説明資料送付依頼を受領した。この会合には、本会から吉川史隆専門医制度委員会委員長が本会の状況を説明、質疑を受ける予定である。[資料：専門医2、3]

8) 倫理委員会 (落合 和徳委員長)

(1) 本会の見解に基づく諸登録(平成23年10月31日)

①ヒト精子・卵子・受精卵を取り扱う研究に関する登録：44 研究

②体外受精・胚移植の臨床実施に関する登録：582 施設

③ヒト胚および卵子の凍結保存と移植に関する登録：582 施設

- ④顕微授精に関する登録：508 施設
- ⑤非配偶者間人工授精に関する登録：17 施設

- (2) 着床前診断に関する臨床研究申請・認可について
11月4日現在申請254例〔承認208例、非承認4例、審査対象外18例、取り下げ1例、照会4例、審査中19例〕（承認208例のうち7例は条件付）
- (3) 会議開催
 - ①「平成23年度第2回着床前診断に関する審査小委員会」を11月11日に開催した。
 - ②「平成23年度第2回倫理委員会」を11月28日に開催する予定である。

9) 教育（八重樫 伸生理事）

- (1) 会議開催
11月18日第4回若手医師企画若手グループによる打合会を開催する。
また、12月9日にも同打合会を開催する予定である。
- (2) 「産婦人科研修の必修知識2011」頒布状況について
11月9日現在、入金済5,306冊、校費支払のため後払希望86冊。
- (3) 明治 日本産科婦人科学会育成奨学基金制度による2012SOGC派遣医師選考について
第68回ACM of SOGC(The Society of Obstetricians and Gynaecologists of CANADA)
〔会期：2012年6月20～24日（予定：オタワに前日着、翌日発）・場所：Ottawa 〕
に派遣する若手医師3名の募集を行っている(11月18日締切)。
- (4) 「用語集・用語解説集」改訂版発刊に向けて
各専門委員会に対し現行の用語集・用語解説集掲載用語に関するご意見伺いを10月末日を締切に行った。今後、用語小委員会で作業を進め会員の承認が必要な事項に関しては、機関誌に掲載しご意見を伺う予定にしている。また、改訂版については金原出版ではなく本会から発行する。
- (5) 「産婦人科研修の必修知識2015」発刊に向けて
産婦人科研修の必修知識2011を基本として2015年版発刊を予定しているが、2011の内容の見直しに関しては、教育委員会委員の施設に所属する若手十数名の意見を取り入れながら改定作業を進めていく予定である。
- (6) ISUOG Free 2-year trainee membership for Japanese trainees について
標記募集を行い希望会員のリストを渉外に通知した。
- (7) 平成24年度専門医認定筆記試験問題作成に関して
4分野35名の先生方に試験問題の作成をお願いしている（締切12月16日）。
- (8) 西日本高速道路エリア・パートナーズ倶楽部奨学基金について

平成24年度標記奨学基金の推薦を12月15日を締切として西日本地域の34大学学長/医学部長宛に依頼を行っている。また、平成23年度1年目受給者の成績ならびに出席状況等につき各大学教授にお伺いしている。

10) 地方連絡委員会 (落合 和徳副理事長) 特になし

II. 理事会内委員会報告並びに関連協議事項

1) 広報委員会 (嘉村 敏治委員長)

(1) 会議開催 なし

(2) JOB-NET 公募情報について [資料：広報1]

(3) ACOG Website 会員専用ページログイン可能人数について [資料：広報2]

(4) ホームページアクセス状況について [資料：広報3]

(5) MSD のバナー広告を本会ホームページ会員専用ページに掲載した。(掲載期間:2011年11月～2012年10月)

(6) バナー広告掲載要綱の一部改定を行った。[資料：広報4]

嘉村 敏治理事「掲載要綱では会員専用トップページはバナーを3枠とすとなっていたが、広告希望も多いのでこの制限を外し、広報委員会で適宜判断していくこととした。」

本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

2) 未来ビジョン委員会 (吉村 泰典委員長)

(1) 第3回未来ビジョン委員会を11月18日に、第4回を12月16日に開催する予定である。

吉村 泰典委員長「理事定数を25名にする件について、本日開催の委員会では、増員となる2名の理事の任期は1年と短くなることを避けるため再来年の改選時に25名とすること、民主的な運営を担保するため理事長推薦枠は導入しないことが確認された。またどのようなようにして2名を増やすかについては、ブロック枠を増やす案や女性枠、若手枠などの案が出た。今後は各ブロックにある1人区をなくすことを検討するなかで女性枠などを考慮していきたい。」

佐川 典正議長「理事長の業務遂行を円滑にするために理事長推薦枠が考えられたが、民主的であるべきということでブロック枠が有力となった。この2年間23名で行くということなら今後も増員しないということも考えられるのではないか。」

吉村 泰典委員長「理事を25名にすることについては6月の第1回理事会で決定され、定時総会で報告されている。公益法人化により業務も増えているということで承認されている。」

佐川 典正議長「実際の業務は常務理事や委員長が行っており、理事の増員との関連はあまり強くないのではないか。」

吉村 泰典委員長「多くの委員会委員長は現在理事ではない。そのような先生方には理事増員が可能ならば理事になって頂くことに問題ないと思う。」

岡村 州博監事「理事は業務遂行というより決議をするためにいるわけで、それを考えると早急に25名とする理由があるのかと思う。」

吉村 泰典委員長「そのような意見もあるので、1年任期の理事を来年2名増員をすることは止めた。」

小西 郁生理事長「理事長推薦枠には問題が多いということか。」

吉村 泰典委員長「ブロックで選出される23名の理事との理事長推薦枠の2名が同じステータスになり

えるのかという点、理事会運営が恣意的になるリスクを考慮すると否定的な意見が多かった。」
櫻木 範明第 65 回学術集会長「現在定員 1 名のブロックをなくすことで検討しているということか。」
吉村 泰典委員長「ブロックには長い歴史があり、今後の検討課題として時間をかけて対応したい。」
櫻木 範明第 65 回学術集会長「単に数だけでなく地域性に配慮してどう選出していくかは、非常に大切な問題であり、みんなが納得できるものにしてほしい。」
吉村 泰典委員長「ブロックについてはよくできた制度であり、様々な面をよく検討した上で進めたい。」
和氣 徳夫監事「理事の役割は何か、ということも含めて議論を進めてほしい。」
嘉村 敏治理事「学会によってはマイナーな領域の意見を反映させるために理事長推薦枠を入れているが、本会はその必要性は少ないように思う。」
吉川 裕之理事「女性がいなくて学会の意思決定が間違えることもありえるので、理事長推薦枠や女性枠を活用して女性理事を登用する仕組みにすると良いと思う。」

3) 震災対策・復興委員会 (岡井 崇委員長)

岡井 崇委員長欠席のため、小西郁生理事長から以下の報告があった。

(1) 第 2 回震災対策・復興委員会を平成 24 年 1 月 19 日に開催する予定である。

4) 診療ガイドライン委員会 (吉川 裕之学会側調整役)

(1) 産科編委員会 (水上尚典委員長)

- ① 「産婦人科診療ガイドライン—産科編 2008」頒布状況について
11 月 9 日現在、入金済 11,945 冊、後払希望 20 冊。
- ② 「産婦人科診療ガイドライン—産科編 2011」頒布状況について
11 月 9 日現在、入金済 10,543 冊、後払希望 102 冊。
- ③ 指導者講習会を 12 月 11 日に開催する予定である。

吉川 裕之理事「出席の先生方が地域に戻って説明に使えるスライドや資料を渡す予定にしている。」

(2) 産科編評価委員会 (海野 信也委員長)

(3) 婦人科外来編委員会 (八重樫 伸生委員長)

- ① 「産婦人科診療ガイドライン—婦人科外来編 2011」頒布状況について
11 月 9 日現在、入金済 9,494 冊、後払希望 97 冊。

(4) 婦人科外来編評価委員会 (峯岸 敬委員長)

5) コンプライアンス委員会 (平松 祐司委員長)

(1) 役員等の利益相反自己申告書の一部改定を行った。[資料:コンプライアンス 1]

吉川 裕之理事「原稿料と拘束時間・労力に対して払われた日当とは一つの項目にした方がよい。」

平松 祐司委員長「賛成の意見が多いようならば一つにまとめる方向で整理したい。」

(2) A 社から、企業活動と医療機関・医療関係者等における透明性の確保のため、研究費や学術研究助成費、原稿執筆料などの医療機関・医療関係者への資金提供を来年度以降、公開するが、公開に際しては公開同意書を締結したい、との要請があった。 [資料:コンプライアンス 2]

同様の要請は他の製薬会社からも来ると予想されるが、学術集會など本会事業の場合、締結当事者を理事長とするか、学術集會会長など各事業の長が行うのか、決めておく必要がある。

和氣 徳夫監事「現行会計基準に学術集會会會計があるのだから学術集會会長でよいのではないか。」

小西 郁生理事長「学術集會会長が行う方がスムーズではあるが、確認して進めてほしい。」

- (3) 11月16日に開催された日本医学会主催の第2回日本医学会分科会利益相反会議に、本会から平松祐司コンプライアンス委員会委員長に出席した。[資料:コンプライアンス3, 4, 5]

6) 医療改革委員会 (海野 信也委員長)

(1) 会議開催

平成23年度第2回委員会を12月16日に開催する予定である。

7) 男女共同参画・女性の健康週間委員会 (竹下 俊行委員長)

(1) 会議開催

11月10日、第2回男女共同参画・女性の健康週間委員会を開催した。

(2) 地方学会担当市民公開講座について [資料:男女共同1]

(3) 女性の健康週間2012について [資料:男女共同2]

- ① ポスターについて
- ② イベントについて
- ③ 新聞広告について

木村 正理事「協賛企業を決めるに当たっての基準はあるか。」

竹下 俊行委員長「特に基準はないが、宣伝の文言など内容についてはチェックを行っている。」

木村 正理事「社会的な動きを考えると、将来的には基準があったほうがよいように思う。」

(4) 第64回学術集会における男女共同参画・女性の健康週間委員会企画について [資料:男女共同3]

8) 若手育成委員会 (齋藤 滋委員長欠席につき金内優典主務幹事)

(1) 会議開催

10月28日に第5回産婦人科サマースクール若手医師による反省会を開催した。

(2) 第2回スプリングフォーラムについて

- ① 都道府県産科婦人科学会からのご推薦とともに20名枠で一般公募を行っている。一般の応募は11月1日現在7名である。
- ② KJ法の講習会を2月3日に開催する予定である。

(3) 第6回産婦人科サマースクール

- ① 既に報告の通り、ホテルメトロポリタン盛岡New Wingで開催する予定である。
- ② 前回の教育若手育成合同委員会での委員の先生方のご意見もあり、「被災地支援ツアー(仮称)」をオプションでサマースクールの前日である8月10日に宮古市近辺で岩手医科大学・菊池昭彦教授等のご協力を頂き開催する予定である(40名程度募集予定)。
- ③ 第5回に引き続き、若手の先生方のご協力・お手伝いをお願いしたいと考えている。

9) 臨床研究審査委員会 (水沼 英樹委員長)

水沼 英樹委員長欠席のため、小西 郁生理事長から以下の報告があった。

- (1) 婦人科腫瘍委員会より申請のあった研究課題「婦人科悪性腫瘍登録業務及び登録情報に基づく研究」についての臨床研究審査を、通信ベースで実施中である。

10) 医療安全推進委員会 (岡井 崇委員長欠席につき下平 和久主務幹事)

- (1) 医療安全全国共同行動連絡会議と医療安全全国フォーラムが 11 月 18 日に開催され、本会から岡井副理事長が出席した。 [資料:医療安全 1]
- (2) 日本医療安全調査機構の臨時社員総会が 11 月 30 日に開催されることになり、本会から岡井 崇副理事長が出席予定である。 [資料:医療安全 2]
- (3) 日本医療安全調査機構から登録医名簿更新の依頼があり、関係都道府県学会の地方連絡委員に変更、修正等のチェックを依頼した。

III. その他 特になし

資 料

1. 平成 23 年度第 4 回常務理事会議事録(案)
 2. 平成 23 年度第 5 回常務理事会業務担当理事報告並びに関連協議事項予定内容
- 総務 1 : 震災医師派遣担当校
総務 1-1 : 大学病院長あて感謝状案
総務 1-2 : 理事会における学術集会長選出方法
総務 1-3 : 議長の投票について
総務 1-4 : 内閣府「移行認定のための『定款の変更の案』作成の案内」
総務 2 : 若手医師確保に関するワーキンググループからの提言
総務 3-1 : 子宮頸癌取扱い規約改訂第 3 版
総務 3-2 : 子宮体癌取扱い規約改訂第 3 版
総務 4 : 「母子健康手帳に関する検討会報告書」について
総務 4-1 : 日本周産期・新生児医学会よりの通知と依頼
総務 5 : 平成 23 年度乳幼児突然死症候群 (SIDS) 対策強化月間の実施について
総務 6 : 出産育児一時金等の支給の取扱い等について
総務 7 : レセプトの電子化の状況と診療報酬の支払い早期化について
総務 7-1 : 診療報酬等の支払い早期化に関する関係者の対応について
総務 8 : 食品と放射能
総務 8-1 : 福島県「県民健康管理調査」(妊産婦に関する調査) について (依頼)
総務 8-2 : 平成 23 年度県民健康管理調査詳細調査調査票 (妊産婦用)
総務 9 : 第 1 回日本医学会法人化準備委員会のまとめ
総務 10 : 「産科危機的出血に対する IVR のガイドライン 2011」についてのお願い
総務 11 : 肥満症診断基準 2011 完成通知
総務 11-1 : 健やか親子 21 課題 3 シンポジウムの開催について
総務 12 : 「初期臨床研修医キャンプ」への補助金援助のお願い
総務 13 : 全日本私立幼稚園連合会からの依頼
社保 1 : 「第 4 版 産婦人科医のための社会保険 ABC」における訂正について

社保2：公知申請にかかる事前評価が終了した医薬品の保険上の取扱いについて
社保 2-1：新たに薬事・食品衛生審議会において公知申請に関する事前評価を受けた医薬品の適応外
使用について
社保3：治験推進研究事業における治験候補薬および治験候補機器の推薦について
専門医1：日本専門医制評価・認定機構の平成23年度第2回社員総会のご案内
専門医2：厚生労働省からの案内
専門医3：内科学会 ヒアリング資料
広報1：JSOG-JOBNET 事業報告
広報2：ACOG Website 会員専用ページログイン可能人数について
広報3：JSOG ホームページアクセス状況
広報4：日本産科婦人科学会 バナー広告掲載要綱
コンプライアンス1：役員等の利益相反自己申告書改定版(案)
コンプライアンス2：株式会社ツムラと医療機関等の関係の透明性に関する指針
コンプライアンス3：企業活動と医療機関等の関係の透明性ガイドライン
コンプライアンス4：企業活動と医療機関等の関係の透明性ガイドラインの策定にあたって
コンプライアンス5：日本医学会 医学研究のCOI マネージメントに関するガイドライン
ダイジェスト版
男女共同1：平成23年度地方学会担当市民公開講座一覧
男女共同2：平成23年度 女性の健康週間展開案について
男女共同3：第64回学術集会の男女共同参画・女性の健康週間委員会企画
医療安全1：医療安全全国共同行動連絡会議と医療安全全国フォーラムのご案内及びご出席のお願い
医療安全2：臨時社員総会の開催について

以上